



☀️	なし
----	----

☀️☁️	<b>青果卸売</b>	比較的天候にも恵まれ、販売価格の上昇に伴い、売上・仕入も増加した模様ではあるが諸物価高騰の煽りを受け、消費の拡大は見込めないかも…?
	<b>電気機械器具小売</b>	1月は、全商品平均で前年比103%。エアコンは、省エネタイプの高級機種が前年比120%、大型テレビは前年比102%。蓄電池に関心が高まっている。
	<b>商店街(四万十市)</b>	各商店街で「おもてなしの休憩所」をお手伝いしていた「四万十川リバーサイドウォーク」が終了した。その他の観光行事等は再開している。
	<b>クリーニング</b>	料金改定により売上高は増加したが、エネルギー価格、石油製品価格の上昇が続く、収益はさほど変わらない。チェーン店では人件費の増大、固定経費の抑制により取次店の営業時間短縮や整理を進め、店舗出店も控えている。新型コロナウイルスの影響で冠婚葬祭需要が回復しない状況が続いている。今後もリモートワーク、節約志向などの行動変容は定着すると思われる。

☁️	<b>食品団地</b>	食品製造業・飲食店にとって、最近の食材・電気代・ガス代・賃金の上昇が収益悪化となってきた。価格転嫁が大手企業で始まり、中小零細事業所も価格転嫁をせざるを得ない状況下だが、消費者の買い控えも見受けられ、値上げすることにも様々な圧迫要因が発生している。
	<b>テントシート</b>	コロナ禍ではあるが、各種イベント開催がされるようになり、イベント関連主力の事業所も活気が戻りつつある。帆布製品の値上げが、やっと販売価格への転嫁が出来そうな感がある中で、電気料金を始め諸材料費の相次ぐ高騰で大変な状況である。
	<b>製材</b>	全般的に荷動きが鈍いことに加えて、今後のエネルギー価格上昇が大きな懸念材料。
	<b>建具</b>	建具用の建材、金物、襖材料等がまだまだ値上がり続けている。製品代に100%価格転嫁できていない所がある。1番使用するメーカーが1/21よりかなり値上げになった。
	<b>製紙(家庭紙)</b>	製品への価格転嫁は浸透しつつあるが、収益面では厳しい状況である。製品価格の上昇に伴い購買意欲が低下するのでは?と心配する。(県内家庭紙業界)
	<b>コンクリート製品</b>	年度末に向けて出荷量の増加を期待したが、思いのほか令和5年1月分は前年同月より減少した。
	<b>刃物製造</b>	下半期が始まり10.11.12月と良い結果を残してきたが、1月になり資材の入荷が遅れ、納品に支障をきたしている。受注は有るものの、出荷が滞っている物が多い。
	<b>船舶製造</b>	新型コロナウイルスの影響に関しては、今は落ち着いている。
	<b>珊瑚装飾品製造</b>	1月の取引額は前年同月比23%となった。これは前年、大口取引が計上されたことで取引額が増加したことが原因であり、一昨年の同月比では64%となった。
	<b>生鮮魚介卸売</b>	仕入価格の上昇により売上は増加しているが、利益にはつながっていない。年が明けてから魚の入荷が少なめ。新型コロナウイルスの影響で飲食店との取り引きが変動する。
<b>各種小売(土佐市)</b>	状況は変わらず、あまり人の動きが見えない。お正月は動いた様子があった。	

☁️	<b>中古自動車小売</b>	タマ不足並びに相場高騰により仕入が厳しい状況が続いていたが、少しずつではあるが落ち着きを取り戻して小売りの幅が広がりにつつある。販売面では、依然軽自動車の需要が多く品揃えしやすくなったが、販売価格が下降傾向にある。
	<b>商店街(高知市)</b>	中央公園地下駐車場 売上前年比:114.3% 利用台数前年比:117.1%。電気料金の高騰が長期化すると、収益を圧迫すると共に消費の減退が懸念される。
	<b>旅館・ホテル</b>	11月、12月は各種キャンペーンもあり、回復傾向だったが、1月に入り低調になってきた。キャンペーン終了後、需要が低迷するのは必至の様子。今春よりNHK「らんまん」の放送が始まるのはプラス要因だが、効果の程は想像しづらい。宴会は新型コロナウイルス感染者増加により忘新年会のキャンセル・規模縮小開催が相次いだ。
	<b>旅行業</b>	組合クーポン前年同月対比250%増、全旅クーポン売上加算後、約6倍。前年対比より売上は改善しているが、令和元年度同月の比較値は7割程度の売上であり、旅行業界の景況は依然として厳しい状況である。令和4年度廃業組合員は2社となった。後継者支援の活用も助言しているが、事業継承の意識は非常に低い。
	<b>IT事業</b>	特に大きな変化はなく、IT人材不足が続いている。引き続き、人材の確保につとめる必要がある。

☁️☔️	<b>酒類製造</b>	コロナ禍の状況や、値上げ等についての反動はやや沈静化。値上げの時期による、メーカー毎の出荷量格差がみられる。
	<b>木製品素材生産</b>	丸太価格は先月からは横ばい状態となっている。長級(3m材・4m材)によって需要に差があり、今は4m材が欲しい状況ではあるが出材者の対応がなかなか難しい状況。製材所では電気料の値上がりにより、かなり影響が出ている。原木入荷は1月末寒波の影響は今のところない状況で順調に出材されているが、今後年度末にかけては国有林の出材が終わってくるので、少し影響が出てくるのではないかと。新型コロナウイルスの影響に関しては、第8波も落ち着き始めており、大きな影響は出ていないと思われるが先行きはわからない。
	<b>製紙(手すき和紙)</b>	原材料の高騰・円安など良い兆しが見えず、厳しい状態が続いており、先行きが見えない。なかなか売り上げの伸びも鈍く前の状態には戻らない。新型コロナウイルス・原材料高騰・円安といつまで続くのか見当もつかない。
	<b>印刷</b>	売上については増、設備操業度も微増か。県内外需要は若干回復、県外需要は業種により好不調が見られる。若干の回復傾向も次月以降の用紙値上げ等の要因で厳しい状況が続くと思われる。
	<b>生コンクリート製造</b>	1月単月の出荷数量は、対前年比89.7%、4月からの累計は81.1%で単月・累計とも若干先月より増加傾向にあるが、地区的には高知協組や高幡地区を除き全県下で減少傾向が続いている。
	<b>機械団地</b>	季節的要因で売上を落とす事業所があるが、団地内は概ね横ばいの業況。一部事業所で電力料金の高騰による収益減が継続している。また、資材部品の遅れは徐々に解消してきているものの、一部に納期が定まらない品目もある。新型コロナウイルスの影響に関しては、家庭内感染の増加、納期の遅れは改善しつつあるも、相変わらず納入時期が不明な一部資材がある。
	<b>卸団地</b>	・コロナの規制緩和により、観光や外食は前年同月と比べ回復している。ただ、物価高による経費増により厳しい状況は続いている。 ・景気悪化が続いている。ガソリン代、仕入れ商品の値上げが今後影響大。・新型コロナウイルスの影響もあって売上減が続くそう。
	<b>ガソリンスタンド</b>	この3年はコロナにより経済が収縮してきたが、この先コロナは風邪と同じ扱いになっていくのではないかと。私達も前向きに経済を発展させるように取り組んでいってほしいと思う。原油価格は乱高下を続けているが、補助金が1月末時点でまだ17.5円残っており、原油が下がれば補助金も下がり、販売価格は大きな変化はない。新型コロナウイルスの影響もウイズコロナということで少しは販売は戻りつつあるが、カーボンニュートラルもあり完全に戻ることはないだろう。
	<b>商店街(安芸市)</b>	がんばろう商店街補助事業を活用し、スタンプラリー&軽トラマルシェを開催。安芸本町商店街を中心に42店舗がスタンプラリーに参加。農林福連携型の軽トラマルシェでは、地元のナスを使った料理や、キッチンカーなどの出店もあり大変賑わった。
	<b>飲食店</b>	前年同月比と売上は同程度だが光熱費や仕入れ価格が高騰しているため収益は悪化、波動的な原材料の値上げに価格転嫁が追い付かない。コロナ禍以前の同月との比較では7.8割と依然厳しい。業態により経営環境に大きな差があり、収益にも反映されている。新型コロナウイルスの影響で集客減、売上の低下がみられ、今後は業界の規模が縮小すると思われる。
<b>一般土木建築工事</b>	令和5年1月分の公共土木用生コン出荷量は、前月比92.5%、前年同月比89.7%。令和4年4月から令和5年1月累計においては前年累計対比81.1%。12月の工事請負金額は前年当月比で52.1%、前年対比累計金額では85.9%。令和4年12月末時点の前年対比累計請負金額は、国:93.9%、高知県:同累計71.1%、市町村:同累計100.5%となっている。生コン出荷量、工事請負金額共に累計では落ち込んでいるが、災害復旧工事、防災・減災対策工事、高速道路の延伸工事などの大型工事は継続している。生コンクリート単価については、引き続き値上げ交渉を行うことと共販率上昇に向けた取り組みを当組合としてもできることを行っていく。共販率の引き上げに苦慮している。1月1日契約以降の生コンクリート価格引き上げについては、高知市内は難航予想。その他の地区については、引き上げに理解を得ている。	
<b>電気工事</b>	組合員の施工する電力引込線工事は、前年比131.6%となった。高知中央地区が減少したものの、香長、中芸地区が大幅に増加した。	
<b>一般貨物自動車運送</b>	12月に続いて寒波により高速道路等で渋滞が発生し輸送が乱れた。燃料価格は落ち着いているが、高値で推移していることには変わりなく、物量が回復しきれていない状況で収益を圧迫している。新型コロナウイルスの影響で荷動きが悪く売上が伸びない。荷動きが戻らなければ収益が落ち、経営を圧迫する。	

☔️	<b>タクシー</b>	実働1日1車当りの前年同月比営業収入:93.0%、輸送回数:88.8%、実働率は51.5%。県は「らんまん」のドラマが始まることで観光客誘致と経済効果を期待しているようだが、タクシーはそれにより増収は考えられないし、稼働率が悪くなっており、運転者不足で車を動かせたくても動けない。新型コロナウイルスに関しては、感染者は減少しているが、繁華街に人が居ない。コロナ感染以前の業界は望めない。
----	-------------	---